科目名（英）	運動学Ⅱ Kinematics Ⅱ	必修選択	必修	年次	2年次	担当教員	
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 1	開講区分 曜日・時限	後期
学科・コース	鍼灸科						

【授業の学習内容】

運動学Ⅱでは運動学Ⅰで学習した身体の正常な動作を作り出す筋・関節などの知識をベースに診察、施術に活用できる知識と技術について学習する。

1. 姿勢・身体アライメント計測
2. 関節可動域測定の目的と意義およびその測定法
3. 徒手筋力検査の目的と意義およびその検査法
4. 上肢の徒手筋力検査
5. 下肢の徒手筋力検査
6. 筋タイトネスの検査測定方法

前田
実務実績　付属治療院での診察から治療までの業務に従事　各種スポーツのトレーナー活動
　　医療系専門学校にて教鞭をとる。
資　　格　はり師・きゅう師、JRFUセーフティアシスタント

【到達目標】

①動作観察より障害されている機能を推測できる。②MMTについて説明できる。③運動療法（ストレッチ）について適切に行うことができる。

授業計画・内容	
1回目	標準姿勢、姿勢に影響を及ぼす要因について説明することができる。
2回目	不良姿勢を観察することができる。下肢アライメントの観察ができる。
3回目	関節弛緩性検査の意義、関節弛緩性の要因について説明することができる。
4回目	関節弛緩性検査を行うことができる。関節弛緩性に対する処置について考察することができる。
5回目	関節可動域検査の意義や目的、制限因子について説明することができる。
6回目	関節可動域測定　肩甲帯、肩・肘・手関節の測定を行うことができる。
7回目	関節可動域測定股・膝・足関節の測定を行うことができる。
8回目	関節可動域測定頸部・胸腰部の測定を行うことができる。
9回目	筋柔軟性と筋タイトネスの測定意義について説明することができる。筋タイトネスの測定方法について理解することができる。
10回目	腰部・下肢のタイトネス検査を行うことができる。
11回目	肩関節周囲の筋タイトネス検査を行うことができる。
12回目	徒手筋力検査の目的・意義について説明することができる。測定上の留意点や結果の表示方法について理解することができる。
13回目	頸部・体幹の徒手筋力検査を行うことができる。
14回目	肩・肘・前腕（手関節）の徒手筋力検査を行うことができる。
15回目	下肢（股・膝・足）の徒手筋力検査を行うことができる。
準備学習時間外学習	準備学習　解剖学や運動学Ⅰで学習した人体構造のうち関節構造、筋の起始停止および作用について事前に学習すること。 時間外学習　徒手検査は慣れが必要なため本演習の授業で学習した内容を再度、各自で練習すること。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

医歯薬出版社　東洋療法学校協会編　解剖学
日本医事新報社　人体の正常構造と機能、
滋慶出版　ずっと使える　鍼灸臨床BOOK